第1回松江市公共料金に関する審議会 議事録

日時：令和6年12月26日（木） 10：00～12：00

場所：松江市役所 3階 第1常任委員会室

出席委員 岩本委員、植田委員、金井委員、川谷委員、喜多川委員、
利弘委員、原田委員、福島委員、万代委員、宮原委員

事務局 上定市長、小塚上下水道局長、杉谷部長、桂技監、中西次長、
石津総務課長、田淵検査員、藤間営業課長、吉岡事業推進課長、
橋本維持管理課長、飯野浄配水課長、花田総務係長、赤山財務係長、
新田経営係長

傍聴者 0名（報道関係者除く）

○事務局 中西次長

失礼いたします。定刻となりましたので、ただいまから松江市公共料金に関する審議会を開催いたします。

本日お集まりの皆様方には、本審議会の委員をお願いしたところ、ご快諾いただき、また、お忙しいところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

私は本日の司会進行をさせていただきます上下水道局上下水道部次長の中西でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、本審議会につきまして、内容を説明させていただきます。松江市の公共料金の改定につきましては、松江市公共料金に関する審議会条例によりまして、あらかじめ審議会の意見を聞くことになっております。

審議会の委員につきましては、学識経験者、松江市の区域内の公的団体等のほか、一般公募を含め、住民代表の中からお願いさせていただくことになっております。今回は、10名の皆様をお願いをしております。本審議会での審議を経て、答申をいただきたいと思っております。

それでは、開会にあたりまして、松江市長の上定昭仁よりご挨拶を申し上げます。

○上定市長

皆様、おはようございます。本日、大変お忙しいところ、公共料金に関する審議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、皆様には、快く本審議会委員への就任をお受けいただきましたことに、改めて感謝を申し上げます。

今回、ご審議をいただきます本市の水道料金に関しましては、平成27年の1月に水道料金体系の見直しと市町村合併に伴います料金の統一化、1本化を図るために改定して以降、概ね10年が経とうとしているところでございます。

この間、松江市の上下水道局におきましては、安定的に経営を維持し、市民の皆様へ上下水道サービスをお届けすべく、平成30年に第1次松江市上下水道事業経営計画というのを策定しており

まして、それ以降、水道料金収入をベースにしまして、毎年度経営の改善を図ってきたという経緯がございます。

本市の水道事業に関する特徴ということで申し上げますと、防災の拠点性、災害時に対応ができるバックアップ体制というのを重視しております。防災の拠点となります病院や小中学校につながる水道管の工事・整備であったり、また、ダムや浄水場など、基幹施設についての耐震化を図っていくということの方針として進捗させておりまして、その状況というのは、全国においても非常に高い進捗の水準だということに自負しているところでございます。

一方で、先般、ちょうど1年前ですけれども、今年の1月には能登半島地震もございました。この際に、まさにたくさんの水道施設が被害を受けまして、長期にわたって断水が継続するといった状況も見受けられました。

本市としまして、継続的にサービスを安定的に運用していくためには、やはり計画性を持って、ある程度の資金負担を行いながら管理・運営・メンテナンスを図っていく必要があるというように認識しているところでございます。

そのためには当然資金が必要であります。その基となります水道料金収入につきましては、これは全国的な傾向として、人口減少に伴い減収が続いております。もちろん本市上下水道局としまして、コスト削減の努力というのは継続的に続けているところでございまして、例えば小規模な水源、あるいは施設の統廃合であったり、メーカーに依存しがちなシステムの運用についても、そこからの脱却を図る。あるいは人員の削減を図っていくというようなコスト削減努力はこれまでも続けているところでございます。

更に、その一方で、平成28年度に統合いたしました旧簡易水道に係る国の支援が10年後となる令和9年度には終了することとなっております。

また、それに加えて、昨今の物価高、エネルギー価格の高騰、また、人件費の増崇、資材価格についても非常に高止まりしているといった状況の中で、水道料金について改定をすることによって安定的な経営を継続するという事も求められているのが現状でございます。

水道料金の改定というのは、市民生活に大変大きな影響がございます。慎重に進める必要があるという認識の下で、本審議会において水道料金の改定について今回諮問をさせていただきました。皆様に忌憚のないご意見を伺い、今後の対応について検討を進めていきたいと考えているところでございます。皆様には大変貴重な時間をお借りすることとなって恐縮でございますけれども、活発なご意見をいただきますようお願いいたしまして、私の冒頭のご挨拶とさせていただきます。本日より、何とぞよろしく願いいたします。

○事務局 中西次長

ありがとうございました。

続きまして、本日ご出席いただいております委員の皆様をご紹介します。なお、本日のお席は50音順とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、ご紹介いたします。島根県立大学教授、岩本浩史様。

○岩本委員

岩本です。よろしくお願い致します。

○事務局 中西次長

松江旅館ホテル組合組合長、植田裕一様。

○植田委員

植田でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局 中西次長

松江商工会議所常務理事、金井寿彦様。

○金井委員

金井でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局 中西次長

松江市町内会自治会連合会常任理事、川谷一寛様。

○川谷委員

川谷でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局 中西次長

一般公募、喜多川明日子様。

○喜多川委員

喜多川です。よろしくお願いいたします。

○事務局 中西次長

利弘健公認会計士・税理士事務所代表、利弘健様。

○利弘委員

利弘と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局 中西次長

連合島根東部地域協議会議長、原田一輝様。

○原田委員

原田でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局 中西次長

松江市PTA連合会会長、福島喜美子様。

○福島委員

よろしく申し上げます。

○事務局 中西次長

松江市消費者問題研究会会長、万代悦子様。

○万代委員

どうぞよろしく申し上げます。

○事務局 中西次長

一般公募、宮原展子様。

○宮原委員

宮原と申します。よろしく申し上げます。

○事務局 中西次長

委員に就任いただいた皆様方には、委嘱状をそれぞれお渡ししなければなりません。時間の関係上、各席に事前に置かせていただいております。申し訳ございませんが、これをもちまして交付に代えさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

また、本来ですと、本日出席しております職員の自己紹介をさせていただくところでございますが、こちらも時間の都合上、席次表をもって代えさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

続きまして、審議会の会長の選出ですが、松江市公共料金に関する審議会条例第4条の規定により、委員の互選となっております。事前に事務局でお願いをさせていただいている方がございますが、その方にお願ひしてもよろしいでしょうか。

……………異議なし……………

それでは、会長を岩本浩史委員にお願ひいたします。どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、岩本会長にご挨拶をいただきたいと存じます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○岩本会長

多くの皆様にははじめましてになるのですけれども、島根県立大学の岩本と申します。よろしくお願ひします。

島根県立大学はキャンパスが3つあって、松江キャンパス、出雲キャンパス、浜田キャンパスとあるのですが、私は浜田キャンパスの地域政策学部というところに所属しておりまして、専門は行政法の授業を担当しております。

多分、学識経験者枠で呼ばれたと思うのですが、全く水道事業の専門家ではなくて、本当に法律のほうの教員なのですけれども、精一杯やらせていただこうと思っております。よろしくお願ひします。

○事務局 中西次長

ありがとうございます。

続きまして、職務代理人となる副会長の選出ですが、審議会条例第4条第3項によりまして、会長からご指名いただくことになっておりますので、お願いをいたします。

○岩本会長

それでは、金井寿彦委員にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

○事務局 中西次長

それでは、金井寿彦様に副会長にご就任いただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○金井副会長

よろしくお願ひいたします。

○事務局 中西次長

続きまして、諮問書の手交に移ります。それでは、諮問書を市長から会長へお渡ししますので、よろしくお願ひいたします。

(諮問書手交)

○事務局 中西次長

ここで、市長は所用により退席とさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

○上定市長

どうかよろしくお願ひいたします。

○事務局 中西次長

これから議事の進行となりますが、松江市公共料金に関する審議会条例第5条の規定により、岩本会長に審議会の議長をお願いいたします。それでは、よろしくお願ひします。

○岩本会長

よろしくお願ひします。以下は座って発言させていただこうと思っております。

今から議事に入りたいと思っておりますが、議事を始める前に、事務局のほうから議事の進行等のご説明をいただけるということで、よろしくお願ひいたします。

○事務局 中西次長

まず、本審議会の公開についてですが、特に非公開の基準に該当する事項はありませんので、松江市情報公開条例第30条により、原則公開とさせていただきます。

次に、本審議会の議事録ですが、事務局で作成し、会長、副会長、委員の皆様にご確認をいただき、公開させていただきます。

続きまして、議事の進行についてご説明いたします。最初に、松江市の現況として、松江市水道事業の概要及び第1次松江市上下水道事業経営計画を一括して説明いたします。説明のあとに質疑、ご意見をいただきたいと思いますと考えております。

続きまして、資料確認をお願いいたします。お手元にあります資料でございますが、次第、委員名簿、席次表、質問事項、要求事項、記入票、それぞれA4のものが1枚出ております。

番号を入れておりますけれども、資料1、諮問書の写し。資料2、松江市水道事業の概要。資料3、第1次松江市上下水道事業経営計画。資料4、第1次松江市上下水道事業経営計画の進行管理（令和6年度）。資料5、ここから始まる松江市水ものがたり。以上でございます。

また、参考資料といたしまして、用語の説明、それから上下水道事業年報令和6年度版をお配りしておりますので、よろしく願いいたします。資料が足りない、乱丁等がございましたら、議事中でも構いませんので、事務局のほうにお申し出ください。

それでは、よろしく願いいたします。

○岩本会長

ありがとうございました。

それでは、今から議事に入らせていただきます。次第でいうと6まで終わったので、7のところからになりますが、はじめに「松江市水道事業の概要」、並びに「第1次松江市上下水道事業経営計画について」を一括してご説明お願いいたします。

○事務局 新田経営係長

お待たせをいたしました。松江市上下水道局経営課の新田と申します。水道事業概要について説明をさせていただきます。座って説明をさせていただきます。

この表紙の写真、お手元の資料では資料の2でございます。この表紙の写真は、忌部川を水源とする忌部浄水場の写真でございます。松江市の自己水源として100年以上水を送り続けている重要な施設でございます。

この施設が建設されたのは大正時代に遡ります。ここでは松江市の水道の創設期から少しお話をさせていただきます。

明治の中期ごろにコレラなどの伝染病が日本各地で多発し、松江市でも清浄な水を家庭まで送り届ける水道施設の機運が高まりました。日本各地で水道布設に関わったイギリス人技師のバルトン氏の水源調査に始まり、千本ダムを水源とした忌部浄水場から大正7年に通水を開始し、以来106年を迎えています。

市政の発展とともに、千本ダムだけでは水源が不足したため、新たな水源を求める拡張事業を続けてまいりました。昭和32年には、忌部川の上流に大谷ダムを建設しましたが、自己水源の開発は限界を迎え、昭和44年には、安来市にあります布部ダムを水源とする島根県用水供給事業、飯梨川水道からの受水を開始しております。

しかし、昭和48年には、異常渇水により134日間にわたる給水制限をもたらすなど、渇水に悩まされ続けてきました。

昭和 55 年には、安来市にある山佐ダムを水源とする飯梨川水道の山佐系から受水を開始しましたが、渇水のリスクは取り除けませんでした。

安定給水に向けた給水改善事業を実施しながら、平成 16 年には地域水道ビジョンである第 1 次松江市水道事業経営戦略プランを策定し、経営の効率化を進めるとともに、平成の大合併により上水道事業 3 事業、簡易水道事業 34 事業を運営するための指針としました。

平成 23 年には、課題であった安定水源として、雲南市に建設された尾原ダムを水源とする島根県用水供給事業、斐伊川水道からの受水を開始したことで、渇水のリスクが大幅に低減するとともに、不安定な小規模水源を受水に転換することが可能となりました。

同じ年に東出雲町との合併をし、現在の市域となっています。

先ほどもご説明したとおり、松江市は水道水源に乏しく、市外のダムを水源とする県の用水供給事業から受水をしています。その割合は、市内の千本ダム・大谷ダムが約 20%、市外の尾原ダム・山佐ダム・布部ダムが約 80%となっています。

水源であるダムの位置を示したのがこの図になります。安来市の飯梨川にある布部ダム・山佐ダムは、松江市から車で約 50 分ほど。斐伊川にある尾原ダムは、雲南市と奥出雲町の境にあり、高速道路を使っても 60 分ほどの位置になります。

また、布部ダム・山佐ダムを水源とした飯梨川水道では、下流の今津浄水場から松江市までの送水管延長 15km。尾原ダムを水源とする斐伊川水道では、下流にある三代浄水場から松江市の東出雲町、また、美保関町までの送水をしており、送水管の延長は 109km にもなっています。

このことから、松江市は市内に水源となる河川があるような都市と比べると、つくった水を送るコストが非常に高くなる構造となっています。

この図は、市内の水道施設位置を示しています。緑色の線は、先ほど説明した県の送水管ですが、松江市上下水道局として浄水施設が 10 施設、配水池として 100 施設、ポンプ場として 81 施設、総管路延長は 1,564km を管理しながら水道水をご家庭に送り届けています。

地形的な要因もあり、標高の高い山などに配水池と呼ばれるタンクなどの施設も多く、こうした施設を維持管理していくにも多くの費用を要します。

この地図の中で、宍道町については、お隣の出雲市・斐川町とともに一部事務組合として斐川宍道水道企業団が管理運営しているため、松江市水道事業には含まれていません。

次に、上下水道局の収支の状況です。こちらは令和 5 年度単年度の収益的収支を示しています。収益的収支とは、水道料金や施設の維持管理等、1 年間の経営活動に伴う収入と支出を表しています。

収益の合計は 54 億 9,935 万円で、その大部分 77%は、市民や企業からの水道料金です。そのほかに、統合した簡易水道に対する補助を含む一般会計からの繰入金約 5%、長期前受金戻入益とあって、過去に国などから受け取った補助金をあとから戻し入れする現金を伴わない収入などが約 18%ございます。

費用の合計は 51 億 6,449 万円で、水道を将来へ引き継ぐための施設更新費である減価償却費が約 35%、島根県から水を購入する受水費約 23%が大きなウェイトを占めています。

施設や管路などの固定資産が多いことや、県からの受水の割合が多く、送水延長が長いことにより多くの費用が必要となっています。

そのほかに諸経費約 24%や人件費約 13%などがございますが、物価高騰などの影響により、費用

全体が急激に増加をしています。

収支を差し引き、純利益として3億円余りを計上していますが、収入の中には現金を伴わない長期前受金戻入益というものが約5億円含まれており、見かけ上は黒字となっていますが、非現金収入を控除した原価計算上の収支はマイナスとなっています。

続いて、資本的収支、水道管の布設等、将来にわたり住民サービス提供に伴う収入と支出の状況となります。

支出では、毎年計画的に学校等への水道管や施設の耐震化工事を進めています。5年度には約33億円の工事を行いました。また、借入金13億円を返済しています。

これを補う収入には企業債や国県補助金、一般会計からの繰入金がありますが、費用を賄う財源としては、水道料金を基にした減価償却費や純利益により蓄えられた内部留保資金が一番重要なものとなります。

収益の大部分を占める水道料金の収入ですが、現在の料金水準は平成27年1月の改定により現行単価となり、現在に至っています。当時、現在も続く人口減少等に伴う給水収益の減少、耐震化・老朽化対策としての建設投資、国の方針に基づく経営基盤が脆弱な簡易水道の統合、行財政改革の推進、平成の大合併から10年経過後の料金統一といった課題に対応するため、平均5.50%の値上げを行いました。

負担の公平性から、地域ごとの上水道料金を統合予定の簡易水道料金の目標として統一し、給水料金の最低単価と最高単価の格差を示す逡増度を4.4倍から3.58倍に緩和しました。

逡増度の緩和とともに、固定的費用を回収する基本料金の配賦を見直し、給水料金との割合を2対8から4対6へ近づけました。

また、平成29年4月に市内全簡易水道事業を上水道事業へ統合し、市内1水道事業となるとともに、料金についても段階的に上水道料金へ統一し、令和2年1月に水道サービス一元化の完了により公平性を確保したところです。

これが松江市水道給水条例第23条に定められた現行の水道料金表です。基本料金は、水道メーターの口径に応じて、ひと月分の料金が800円から42万2,200円となっています。

給水料金は段階別逡増料金となっており、使用水量に応じて10^mまで、20^mまで、40^mまで、60^mまで、60^mを超えるの5段階に分かれ、67円から240円までの単価となっています。

使用水量が増えるほど単価が高くなる料金体系を逡増制といい、大量使用者の水道料金を高くすることにより、一般家庭の料金を安くし、限りある資源である水の使用を抑制する目的で、多くの水道事業体で採用されています。

現行では、最低単価の67円と最高単価240円の較差が逡増度3.58倍となっています。

現行水道料金を他都市と比較したものがこのグラフになります。県内の他都市でございますが、先ほど紹介した料金表に基づいて、一般家庭を想定したメーター口径20mm、月20^mを使用した場合の料金での比較となります。

松江市の料金は4,257円ですが、島根県内、上水道料金の高いほうから6番目、平均4,043円よりも高い水準となっています。

こちらは都道府県庁所在地47都市及び中核市62都市との令和4年度末時点での比較です。都道府県庁所在地では福島市が5,093円、中核市では郡山市が5,203円で最も高く、松江市はそれぞれ高いほうから6番目と7番目という位置付けになります。

平成 16 年度策定の第 1 次水道事業経営戦略プランに次いで、平成 24 年 7 月に簡易水道事業の統合に向けた課題や給水収益の減少などに対し、今後の方向性を明示し、健全経営を持続できるよう第 2 次水道事業経営戦略プランを策定しました。

また、組織的には、平成 25 年 4 月に上下水道事業を一元的に管理するため組織統合を果たし、松江市上下水道局が発足しました。

平成 27 年 1 月には、個別に第 1 次下水道事業経営戦略プランを策定するとともに、平成 26 年度末には面的整備が終了しています。更に 28 年度末には、市内の簡易水道事業を上水道事業に統合し、上下水道事業の一体的な推進が可能となりました。

地域水道ビジョンとして、上下個別に定めていた経営戦略プランを一体化し、両事業を効果的に連動させることで、一層計画的・効率的な経営を実現させるために、第 1 次松江市上下水道事業経営計画を平成 30 年 10 月に策定し、施策ごとの年次的な目標値を設定し、毎年度 PDCA サイクルを回すことで計画の進行管理を実施しているところです。

これで水道事業概要の説明を終わります。

続いて、次の資料について説明させていただきますので、お待ちください。

○事務局 中西次長

失礼いたします。上下水道局の中西でございます。私のほうから、お手元にあります資料 3、資料 4 の第 1 次松江市上下水道事業の経営計画についてご説明をさせていただきます。座らせていただきます。

まず、資料 3 でございますが、事業の概要でも説明いたしました。水道、下水道の両事業の一層計画的・効果的な経営を実現させるために、上下一体となった経営計画を平成 30 年に策定いたしました。

この計画は、松江市の現状に合った内容としておきまして、施策ごとに年次的な目標値を設定した上で、毎年度 PDCA サイクルにより検証・見直しを行い、この計画を適切に管理することといたしております。

12 ページになりますけれども、この計画の体系を記載しております。計画では、上下水道事業の効果的な連動による健全な水循環の実現と地域防災力の向上というものを趣旨といたしまして、目標といたしましては、収益確保と人材育成による経営基盤の整備、未来へ引き継ぐ安心安全な上下水道資産の維持・運用、双方向のコミュニケーションとお客さまサービスの向上、この 3 つの目標を掲げた上で、それぞれに具体的な施策を掲げております。

お手元の資料の 13 ページ以降になりますけれども、その施策の内容、目標値を記載しております。すべて毎年度検証・見直しを行っておりますけれども、その中でも主要な項目を進行管理といたしまして公表させていただいております。それが 6 年度版として、資料 4 の経営計画進行管理でございます。

それでは、令和 6 年の進行管理により、上下水道局の取組をご説明させていただきます。

まず、表紙でございますけれども、こちらの写真は、1 月に発生いたしました能登半島地震で被害を受けた輪島市内での水道の応急復旧活動の様子でございます。

青色の服を着た職員が上下水道局の職員で、オレンジ色の服を着ておられる方は、島根県管工事業者協会の民間事業者の方です。現地では、水道管の破損による漏水を見つける調査や、通水するた

めの仮復旧工事などを行っております。現在でも上下水道局から珠洲市のほうへ1名派遣をしております。復旧にあたっているところがございます。

続きまして、1ページから4ページは、令和5年度の決算の状況を記載しております。なお、ここから具体的な説明をさせていただきますけれども、本審議会は水道料金についての審議会でございますので、水道・下水道両事業を記載しておりますけれども、水道事業を中心に説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

水道事業でございますが、5年度の決算は、概ね1年前に見込んでいたものと同様の決算となったところがございます。しかしながら、今後も物価高騰等が続くものと考えておまして、費用の増加により経営環境は厳しいものとなるだろうと考えております。

先ほどの概要でもご説明しましたけれども、決算のポイントといたしまして、1から4点記載しております。3番目に単年度純利益は計画値を上回りとなっております。約3億3,500万円の利益を計上したところがございますが、先ほど申したとおり、非現金収入を考慮すれば原価計算上の収支はマイナスとなっていると、実質赤字だということをご記載しております。

続きまして、下水道事業でございますけれども、下水道の決算につきましては3番目に記載しておりますが、単年度純利益は計画値を若干上回り、また、非現金収入を控除した原価計算上でも、水道がマイナスですけれども、下水道については、現時点ではプラスの状況となっております。

その下段のほうに建設改良事業の年次推移を記載しております。建設改良事業というものは、新しい施設をつくったり、既存施設の改善・改良をするもので、水道・下水道ともに管路や機械設備など非常に多くの施設を管理していることから、建設改良事業費は大きなウェイトを占めております。

まず、水道事業でございますが、大正7年、通水以来100年を超えており、水道管路の基本的な耐用年数は40年とされております。現在100年を超えておりますので、かなり古くなっている管も多数ございます。

また、小中学校、それから拠点となる病院に向けた重要管の耐震化を積極的に進めている関係で、水道管路の工事は毎年約20億円程度のお金を使わせていただきながら進めているところがございます。

その結果、ここにあります管路更新率が1.3から1.0、大体1%という数字になっておりますが、100年かけると松江市中にある1,500kmの水道管が全て変わっていくと、そういうイメージでございます。

なかなか大変な数字ではございますけれども、全国の平均が約0.6%、140年に1回ぐらいしか変えられないということで、松江市としては積極的に更新を行い、耐震化等を進めているところがございます。

下水道事業でございますけれども、下水道事業は、昭和56年に供用スタートをしてから約43年経っております。下水道管路の耐用年数というものは約50年というように設定をされておまして、まだそこまでは大きく古くなった管がないということで、水道事業が約20億円の工事に対して、下水道管路の工事は、現在では毎年2億円から5億円、大体3億円前後で推移をしているものがございます。

こちらの経営指標により、類似団体との比較を記載しております。水道事業でございますが、少し特徴的なところについては説明いたします。

営業収支比率というものは、概ね水道料金による収入でどれぐらい費用が賄えているかというものを表しておりまして、数値的に見ると 95.2。水道料金をもって費用はすべて賄えていないという状況でございます。

一方、旧簡易水道等に対する繰入金という補助的な収入もございまして、そういったものを入れたトータルの収支になります経常収支比率というものは現在 106.9%ということで、これで純利益が計上されているという状況でございます。

しかしながら、ここにあります水道料金以外の収入で、旧簡易水道に対する補助金というものが、平成 28 年度に統合したあとピークで約 3 億円あったものが、令和 9 年度には 0 になるということで、今後の経営は非常に厳しくなっております。

こちらが先ほど申した管路の更新率で、松江市が 1 に対して類似団体は概ね 0.7 から 0.6 で推移をしているところでございます。

それから、水を 1 m³ つくるのにどれぐらいの費用がかかるかという給水原価でございますけれども、松江市は旧簡易水道を含めて地形的な問題で施設もたくさんございます。それから、遠く離れた県営の用水供給事業のほうから受水をしている関係で、類似団体と比べると高い費用がかかるというところを表しております。

続きまして、5 ページからは、この計画にある施策の検証と改善を記載しています。まず、収益についてご説明申し上げます。

5 ページのところですが、まず、水道をお使いいただいております給水人口、こちらが令和元年に 18 万 9,407 人いらっしゃったところ、令和 5 年度に 18 万 4,169 人ということで、5,000 人余り減少しております。

一方、家庭用の戸数につきましては、グレーの線で示しておりますが、令和元年度に 8 万 5,403 戸だったものが、令和 5 年度に 8 万 7,570 戸と、こちらについては 5 年間で 2,000 戸余り増加しております。これは核家族化等の影響によるものだと考えております。

こういった状況から、人口減により、お使いいただく水道の使用量は年々減少しておりまして、使われる量に応じていただく料金については減少いたしますけれども、戸数が増加することによって、基本料金の部分は増加をしております。こうした要素を分析しながら、今後の料金収入を推計しております。

6 ページの真ん中のグラフでございますけれども、こちらは水道と下水道の料金の推移です。どちらも基本的には人口減少による減少が続いております。

その下のグラフでは、水道料金における使っていただく用途別の構成を示しております。松江市の水道料金は、概ね約 64% が家庭用となり、それから飲食店、宿泊、そういった商業施設営業用が 18%、その他の使用が 18% という構造となっております。

続きまして、7 ページから、これから 10 年間の水道・下水道の料金推計を表にしております。水道の料金につきましては、令和 5 年度、42 億 1,100 万円の料金収入が、10 年後の令和 15 年には 40 億 2,400 万円となり、約 1 億 8,000 万円の減収となる見込みでございます。

下水道事業につきましては、令和 5 年度に 34 億 8,600 万円の収入が、令和 15 年には 32 億 5,600 万円まで減収をし、5 年間で 2 億 3,000 万円減収になると見込んでおります。

次に、9 ページからの費用の縮減でございます。費用の縮減につきましては、縮減効果が大きいものに施設の統廃合があります。小さな施設を大きな施設に統合していく、そういったイメージで

ございますが、水道では小さな水源、そして水を溜める配水池などを統合し、廃止することを進めています。

また、下水道事業では、集落ごとにあります処理施設、そういったものを、例えば島根県の大きな施設のほうで処理するように切り替えるなど、そういった事業を計画的に進めているところでございます。

10 ページに漏水・下水道の不明水対策を挙げております。水道は、水道管の破損による漏水で、地表に表れない、目に見えないものを早期に発見し、修理するために、毎年市内全戸になります約 8 万 5,000 戸を調査しております。

下水道は、破損した管路へ雨水などが浸入していないかどうか、そういったところをカメラ等により調査を行っております。

11 ページに国への財政支援の要望を掲げております。こちらについて、水道・下水道とも基本的には料金収入を基本としておりますけれども、最大限、国などの補助金を確保してやっていくことが重要だと考えております。これは松江市単独ではなく、日本水道協会、また、日本下水道協会といった組織を挙げて国に要望しているところでございます。

具体的には、先ほど申しましたように、水道については簡易水道と上水道を統合したあとの国の財政支援の継続でありますとか、現在検討が進められております水道事業の広域化に向けた国の財政支援、そういったところを要望しているところでございます。

また、下水道については、下水道の管渠、まだ 43 年と申しておりますが、今後 50 年を超えて更新をしていく必要の管が非常にたくさん出てくることとなっております。そういったものに対する交付金を確実に付けていただきたいと、そのような要望をしております。

また、特に簡易水道につきましては、現在、この 12 月からなのでございますけれども、全国の自治体に対して、統合をしたあとの経営状況、そして現在の制度の実効性、そういったものを全自治体に意向調査しております、必要に応じて全国を挙げた要望活動につなげていきたいというように考えております。

続きまして、12 ページになりますが、人材に関する項目です。人材の問題については、これは社会全体の大きな問題でありますけれども、上下水道事業でも技術職員の不足が官民ともに深刻な課題となっております。

5 年度ですけれども、地元の事業者さんと共同で、資料 5 にありますイメージアップコンテンツを作成いたしました。こちらについては、上下水道局の職員でありますとか、施設の維持管理を行っていただいております事業者の皆様をご紹介させていただきながら、どういう仕事をしているかというようなところをパンフレットにして、中学校・高校に配布をしながら、上下水道事業に興味を持っていただく、関心を持っていただくような PR 活動につなげていきたいと考えております。

また、令和 6 年度、今年度ですけれども、動画を作成しております、こちらについても色々な形で配信をし、上下水道事業を官民挙げて人材の確保に努めていきたいと考えております。

この経営計画を審議していただく推進委員会というものがございまして、先般この委員会でも、この動画については、最近の若い人たちは Instagram であるとか YouTube、そういったところを有効に活用すべきだとの意見もいただいたところでございます。これから検討してまいりたいと思っております。

続きまして、13 ページからは、上下水道の資産を将来にわたって引き継いでいくための事業を記

載しています。

まず、この写真にご覧いただけます市内の20%の水をつくってあります忌部町にあります忌部浄水場ですけれども、100年以上が経過した施設をこれからも安全に使うために、令和3年から耐震化の工事を進めております。

しかし、大正7年完成の建造物でございますので、劣化が非常に著しいところもあります。現在、工事の方法の変更や期間の延長等によって費用のほうも増加しているところでございます。

続きまして、14ページの水道管路の耐震化でございますが、市内の水道管をつなげると、北海道まで達する約1,560kmもの延長があります。そのうちで特に重要な管路を基幹管路と呼んでおりますけれども、その管路を中心に地震などでも破損しにくい管に変えていく耐震化工事というものを進めております。

その進捗率については、令和5年度で64.2%まで耐震化が進んでおります。これは基幹管路の全国平均の耐震化、令和4年度で42.3%でございますが、これに比べれば高い数字だと考えております。現在の計画では、10年後には78%まで達したいというように考えているところでございます。

松江市は非常に高い数字だと申しましたけれども、一方で、国においてですけれども、能登半島地震の被害、そして人口減少等を踏まえて、施設の耐震化というものを国は上下水道一体で推進しております。先般、11月に上下水道の耐震化率というものが公表されましたが、まだまだ全国的には十分でない状況でございました。

松江市でも、災害時の避難所などの重要施設に接続をしています水道と下水道の両方の管路で耐震化が行われている割合というのは、まだ23%に留まっている状況でございまして、今後も着実にこれを進めていく必要があると考えております。

それから、15ページには水管橋点検としておりますが、これは令和3年に和歌山市で川の上を通っている水道管の橋が崩落をして、13万人もの人が1週間にわたって断水をする事故が起きました。

これを受けまして、松江市には約500本の水管橋がございまして、このうち重要な339箇所について、2年間で総点検をしました。この結果、異常がないことを確認しております。

16ページになりますが、県営用水供給事業負担金としておりますけれども、概要でも説明した通り、本市の給水量の約8割は県からの受水によるもので、平成23年に、遠く離れた尾原ダムからの受水を開始したことで、それ以降、積年の課題であった渇水の被害というものは出ておりませんが、受水費の増加、そういったものが受水費の割合が非常に大きなものとなっております。

平成23年度以降、受水費にそこまで大きな変化というものはございませんけれども、現在、安来市にある浄水場から松江市の武内神社の横に大きなポンプ場があるのですけれども、そこまでの15kmという水道管を県で耐震化・更新をしていく計画が出ております。

この更新費用というものは、ものすごく高額な費用になるということが想定されておまして、この増加は受水費ひいては水道料金に大きな影響を及ぼすものでございます。現在、受水団体である安来市とともに、県に対して最適なルート選定であるとか、最適な施設整備、そういったものを要望しているところでございます。

続いて、17ページに県営流域下水道負担金を記載しております。下水道について、松江市では、家庭や事業所から排出をされました汚水の約9割、それを県の施設で処理しております。水道と同様に、県の事業費の増加というものは、下水道の使用料に直結することになります。

現在、島根県で、東部にある施設、西部にある施設において、数 100 億円の事業がこれから計画をされることになっておりまして、こちらについても構成団体であります出雲市・安来市とともに、県と検討を進めてまいりたいと考えております。

18 ページですけれども、温室効果ガスの削減。上下水道局は、ポンプ場など大量の電力を消費していることから、法律によりまして CO₂削減が努力義務となっております特定事業者となっております。これまで施設の統廃合や太陽光発電などに取り組んで、今後も削減に努めてまいります。

続いて、ICT・IOT の活用ですけれども、まず、水道ですけれども、非常にたくさんの施設の運転状況を現在、忌部浄水場で一括して監視をしております。

この監視システムでございますけれども、これまではメーカーに縛られた非常に高額なシステムを使っておりましたが、平成 29 年に、そういったメーカーに頼らないオープン型システムといわれる機器で構成したシステムを構築したことによって、次ページに示してありますけれども、これまで使っておりました水道の監視システム、当時 5 億 1,500 万円で作ったシステムでございますが、それを 2,700 万円、約 3,000 万円で更新をすることが可能となりました。

それから、メーカーによるシステムでは年間 700 万かかっておりました保守点検費用というものも、現在は 100 万円まで抑えることができております。このシステムを現在、下水道施設のほうにも適用しながら、順次取り込んでいく作業を進めております。

23 ページからですけれども、ここから防災力の向上を目指した取組を記載しております。

地震等によって大規模な被害、断水が発生した場合でも、日赤、市立病院などの地域医療の拠点となる病院や、避難所に指定されております小中学校、また、福祉避難所 81 施設を対象に、そこまでは必ず水が届くよう耐震化を進めているところでございます。

5 年度までに 81 施設のうち 64 施設への管路の耐震化が完了しております。令和 6 年度、本年度ですけれども、第三中学校、第四中学校、中央小学校、川津小学校、そういったところへの水道管の耐震化工事を進めているところでございます。

また、市内で断水が発生した場合、市民の方が自家用車で水を補給できる給水ステーションというものも、市内の 4 箇所、北陵町、松江市役所、皆美が丘女子高、サンライフに設置をしております。有事の際は自家用車で水を補給に来られる仕組みとなっております。

次に、下水道ですけれども、②の下水道基幹管渠の耐震化としております。これは、くにびき大橋に現在 2 本の下水道管が添架されておりますけれども、この 2 本については、橋北地区から出される汚水のすべてがこの 2 本を通過して橋南地区に行きまして、最終的には馬潟の処理場まで運ばれるという非常に重要な管でございます。

その管のうち 1 本が一部腐食ということが確認をされておりますので、今後、この管の耐震化を併せた更新というものを計画しております。

また、このくにびき大橋については、5 年度にこの橋は崩れないと耐震性が確認されたことで、2 本の管を更新するという方向性で今現在実施をしております。

しかしながら、この管の更新にも 1 本あたり約 10 億円の費用がかかるという、ものすごく費用のかかるところでございますので、今後、下水道事業についても、非常に厳しい経営状況になる時代が来ると考えております。

それから、マンホールの耐震化ということで、これは写真も付けておりますけれども、能登半島地震で被害が出ました液状化によるマンホールの浮上でございます。こういった状況になりますと、

下水道の管路が破損すること、また、交通の障害となり、生活や復旧に大きく影響することとなります。

現在、松江市内にありますマンホールについて、危険性の調査を行いながら、年次的に浮上防止の対策の耐震工事を進めてまいりたいと考えております。

続きまして、27 ページから建設の改良計画というものを載せております。この表で向こう 10 年間の建設事業費を計上しております。

管路の費用につきましては、先ほども申しましたが、これからも当面小中学校等への管路の耐震化を積極的に進めることで、約 20 億円程度の事業費を令和 9 年ぐらいまでかけて行っていく予定としております。その後は、市内にあります老朽管の更新を中心とした約 15 億円程度の事業費をかけさせていただいて、安全安心な水を届けさせていただきたいと考えているところでございます。

また、老朽化した施設、建物、機械設備なども新しいものに更新していく必要がございますので、トータルいたしますと、やはり年間で 30 億円から 35 億円、令和 13 年では約 40 億円、そういった事業費が見込まれているところでございます。

この事業費については、昨年この段階で 10 年間の計画をしたときに比べて、約 35 億円増加をしております。これは昨今の急激な物価高騰による資材価格の高騰、そういったところも含まれておりますが、国においても将来推計する際には、こういった物価高騰もきちんと反映させるよう示されており、その結果がこういった状況でございます。

非常に高い事業費が必要となっているところでございますけれども、今後、災害に強いまちづくりといたしまして、災害時に市民生活、また、経済活動に混乱を招かないよう、また、将来の世代にしっかりとバトンタッチをするためには必要な事業と考えておりますので、今後、市民の皆様にご理解をいただけるよう努めてまいりたいと思っております。

28 ページから、広報活動やサービス向上の取組を記載しております。広報活動といたしましては、これまでホームページや Facebook、市営バスのデジタルサイネージなどを利用して行っておりますが、今後も多様な媒体を利用したいと考えております。先ほど申しましたように、動画については Instagram、YouTube、そういったところも活用したいと考えているところでございます。

また、これまで小学生の 4 年生を中心に、忌部浄水場の見学を行ってまいったところでございますが、現在は耐震化工事のために中止をしております。工事終了後については再開をして、水道事業をより身近に感じてもらえるように取り組んでまいりたいと思っております。

31 ページからは、事業全体を通しての収支見直しを入れております。

水道事業においては、こちらの表の①のところにありますけれども、旧簡易水道への繰り出しが減少すること、それから物価高騰による費用の増加というところで、来年度、令和 7 年度から収支が赤字になるというように見込んでおります。

また、②といたしまして、建設改良の財源に必要な資金というものがございまして、現時点では、ここにあります約 23 億円程度の資金があるところでございますが、これについても令和 11 年、こちらのほうで資金が枯渇するという状況を見込んでおります。

このような厳しい経営状況を踏まえまして、効率的な事業運営に今後も努めてはまいりますが、災害に強いまちづくりを目指すために、料金のあり方について今回議論していただくことになったところでございます。

32 ページは、下水道の収支見直しですけれども、下水道についても水道と同様に、収入減と費用

の増加によりまして、令和13年には赤字になるというように見込んでおります。

続きまして、料金の原価計算でございます。公営企業ではかかったコスト、それを総括原価と呼んでおります。この総括原価というものを料金収入で賄うというように公営企業では定められているところでございますが、ここの図に示しております総括原価といわれるものは、人件費、委託、修繕、そういった実際にかかる費用、これには物価高騰も含めておりますけれども、こういった実際にかかる費用、支払利息、これも実際にかかる費用なのですけれども、これに加えて今後の資産を適切に更新等をかけていくための利益といわれる部分ですが、これを資産維持費といひまして、これも原価にしっかりと反映した上で、この原価を料金で賄うべきというようになっております。収入不足が生じていないかというところをきちんと原価の計算を行って、それを公表するということが、今、国のほうでも自治体のほうに義務付けられたところでございます。

33 ページに水道事業の原価計算を掲げております。原価計算をする期間は、概ね3年から5年とされておりますけれども、松江市では令和8年から12年度までの5年間の算定といたしました。

また、この5年間で必要な資産維持費というものを3億円ということに設定をしております。この3億円というのは、現在ある松江市の借金の残高と、今後蓄えておかないといけない資金のバランス、そういったものを鑑みますと、毎年3億円の純利益を計上することが必要であるというように判断したところでございます。

この5年間で、毎年平均で、黄色で囲っておりますけれども、水道料金としては約40億9,500万円程度の料金収入があると見込んでおりますけれども、一方、費用については、毎年約51億6,000万円かかっていくという状況が見込まれました。

この結果、料金の水準であるものが79.36%というようになっておりまして、100を大きく下回っております。こういった状況で、今回この審議会において、料金のあり方について議論をさせていただきたいと考えております。

料金の諮問内容については、第2回目のところでも詳しく説明をさせていただきたいと考えておりますが、今回諮問をさせていただいた内容が、料金の改定率に直すとどれぐらいになるかというところ、経営計画のほうには記載をしているわけではございませんが、スライドだけで少し計算の結果だけお示ししたいと考えております。

ここの資料ですけれども、赤字にありますが必要な費用、51億6,100万円余りの費用を、現行の見込まれる水道料金40億9,575万円というところをどれだけ改定すると賄えるかという改定率になりますが、この結果は26.02%という結果となります。

この結果を基にして、水道料金の基本料金といわれる部分と、水を1m³あたりに使われるごとにお支払いいただく給水料金という部分に配賦をしたものがこちらの表になっておりますが、これがお手元にあります諮問書の写しにあります案というようになっております。

この算定の根拠、また、実際にどれぐらいのご家庭の使用になるのか、営業の料金になるのか、そういったところについては2回目の審議会のほうでも詳しく説明をさせていただきたいと考えております。

それから、33 ページの下からは下水道の原価計算ですが、34 ページの黄色の部分の下水道の使用料水準も96.17%ということで、100%を下回っているところでございます。ただ、下水道についてはもうしばらくの間、概ね現行の使用料で費用が賄えているという状況が続くということを見込んでおります。

最後に 35 ページ、水道と下水道の広域化というところがございます。

まず、水道事業の広域化なのですけれども、水道事業では、人口減少に伴う水需要の減少、それから水道施設の老朽化、深刻化する人材不足、そういった課題に対して、水道の基盤強化を図るといことで、国が平成 30 年に水道法を改正しております。

その改正された法律の中で、市町村の枠を超えて県単位で広域化を推進していくことが 1 つ示されました。同時に、下水道事業についても広域連携が求められておりまして、令和 4 年度に島根県において水道・下水道とも広域化に関する計画というものが策定をされております。

特に水道事業の経営は、市町村単位で今後も単独で行っていくということは将来的に難しいということから、事業の統合を含めた広域化を検討することになっておりまして、現在、島根県から、ここにあります全县一体での経営統合を推進する方針が示されております。

イメージ的には、松江市上下水道局、安来市上下水道部、出雲市上下水道局、益田市上下水道部、それから津和野町、川本町といったすべての水道事業体を 1 つの組織として経営を一体化していくというような方向性が示されているところがございます。

しかしながら、その方針を市町村ごとに決定をしていくに際して、議論が進んでいないというのが正直な現状でございます。県に対しては、この議論が一層深化していくように、体制のあり方も含めて、検討組織のあり方も含めて働きかけているところがございます。

下水道事業についても、広域化・共同化という形で検討が進められておりますけれども、これについても上下一体となった広域化というものを念頭に置いて、現在議論を進めているところがございます。

私のほうからの説明は以上でございます。よろしくお願いたします。

○岩本会長

ありがとうございました。

移動も大変なので、ここからしゃべらせていただこうと思います。

ご説明ありがとうございました。今、次第の 7 まで終わったということで、今から 8 の審議に入りますが、今回は水道事業の現状や課題の把握を中心とします。諮問内容など、実質的な料金についての議論は次回に回そうと思っております。多分、そちらが本題なのですが、今回は水道事業の現状とか課題、今、ご説明いただいたことを中心にしたいということでございます。

それでは、ただいまご説明のありました松江市水道事業の概要、それから第 1 次松江市上下水道事業経営計画に関して、ご質問、ご意見、あるいは追加資料のご要望などがございましたら、ご発言をお願いいたします。どなたからでも結構です。

私は目が悪いので、皆様の名前が見えにくいかもかもしれませんが、挙手していただければ大丈夫ですけれども。

……………質問・意見なし……………

それでは、私のほうから先に 1 個質問させていただいて良いですか。

みなさんご存知のことなのかもしれませんが、島根県から水をもらっているのではなくて買っているのかな。そうですね、タダではないから。島根県から水を受水している市町村というのがどのくらいあるのかというのを前提情報として教えていただければ。

○事務局 杉谷部長

失礼します。上下水道部長の杉谷でございます。

島根県から受水している団体でございますけれども、島根県の水道用水供給事業が県の東部と西部でございます。私どもが受水しております先ほど説明いたしました飯梨川水道から受水しておりますのは松江市と安来市だけでございます。斐伊川水道から受水しておりますのが松江市、出雲市、雲南市、斐川宍道水道企業団になります。

それから、西部の江の川水道は江津市と大田市の2市が受水をしている状況でございます。

○岩本会長

結構あるわけですね。ほかの自治体も結構県からもらう水が松江市と同じくらい大部分を占めているのか、それとも市で賄っているのかということも。

○事務局 杉谷部長

先ほど、受水している団体そのものは数が多いという説明をさせていただいたのですが、松江市のように、全体の給水量の8割も受水している団体となると、安来市と江津市の2市になるかと思います。

○岩本会長

ありがとうございました。なるほど、そうなのですね。松江市の特色として、県から水を買っている、受水しているというのが大きな特色なのだと理解いたしました。

私はそういう口火を切りました。委員の皆様、何かございますでしょうか。

はい、利弘委員、お願いします。

○利弘委員

ご説明ありがとうございました。

今回、料金の改定というところが多分ミッションになると思うので、最後の改定のところを少し教えてほしいのですが、先ほど出ていた令和8年から12年の収益の40億9,500万円は多分33ページに載っていたと思うのですが、31ページにある収支見通しの、例えば営業収益のところとどうリンクしているのかなというのが少し分からなかったのですが、3億円ぐらい差がありそうで、もっと収益が高いのではないかなと思ったのと、あと、費用のほうも、この48億6,100万円というのは、31ページ目の収支のところの費用のところ、対象外のものがあるのかです。

あと、資産維持費の3億円の根拠は、その下に資本的支出の27億円とかあるので、全然違うから、よくこの辺りのリンクが分からなかったのですが、教えていただくことができますでしょうか。

○事務局 中西次長

中西でございます。少し質問の順番が前後するかもしれませんが、まず、資産維持費の3億円という考え方でございますけれども、こちらは事業費というところとは別に、収益と費用を重ねてい

ったときに、算定期間は令和 8 年から 12 年の 5 年としておりますけれども、目標を令和 15 年、10 年後を目標にしております借金の残高、今 140 億円ぐらいある借金残高を 110 億円程度まで削減したい。また、今後も 10 年後に約 25 億円の資金を確保したいと、そういったところを念頭に置いて料金改定を行ったときに、その資金の残高と借金残高の削減が可能となる資産維持費が 3 億円必要だということで計上をさせていただいたところでございます。

黄色で書かれている 40 億 9,000 万円ですが、これは水道料金だけの収入でございまして、水道料金以外の営業収益が若干ございます。

他の事業体から依頼を受けて工事等を行ったときに出る受託工事収益、水道管には消火栓というものが付いているのですけれども、その消火栓は水道料金で賄うものではございませんので、一般会計のほうから負担金としてもらっております。

それから、水道と下水道の料金を一緒に請求をして口座振替をしたり、検針をしたりして、そういったところの下水道に係る費用、そういったところを下水道事業会計から負担金として入れているものも 4,000 万円ぐらいあり、あわせて 2 億円ぐらいの規模になります。

○利弘委員

それでは、費用のほうも同じように、ここに書いてある 48 億 6,100 万円は、その左側に一応 5 年間の平均値みたいなものがあるのですけれども、これと 31 ページ目の費用のほうは一応リンクしているというように考えて良いのですか。

○事務局 中西次長

リンクはしております。

○利弘委員

はい、分かりました。

大体分かったのですけれども、料金が先ほどの総括原価ベースでされているということがあったのですけれども、今回の料金改定は、水道料金だけを引っこ抜いているように今思ったのですが、それはそれで良いのですか。

○事務局 中西次長

費用の中には、水道料金以外の収入で賄えるものも当然ございますので、それを除いたものが総括原価となっており、総括原価と言われるものは 100%水道料金で回収すべきものというところでの計算となっております。

○利弘委員

良く分かりました。

○岩本会長

ご質問ありがとうございました。そうですね。32 ページの一番下のこれが分かりやすいですね。総括原価を料金収入で賄えるというのが理想というか、目標であるということですよ。

原田委員も手を挙げておられたと思いますので、よろしくお願いします。

○原田委員

ご説明ありがとうございます。少し料金改定の諮問に至る背景、もう少し詳しくお伺いをしたいのですが、ほかの中核市ですとか、全国的な状況も少しお伺いをしたくて、いわゆる建設改良事業費等の観点でいえば、先ほど説明にありましたような物価高騰ですとか、そういったところも関係してくるかと思うのですが、人口減少のことにも触れられておりました。

恐らく高度経済成長時代の施設整備の関係はピークを超えているのではないかと考えておまして、建設改良費も今後大幅に増加していくことはなかなか考えづらいような気もしているのですが、今回の資料4の31ページの概要の2行目にありますとおり、令和7年度から経常収支がマイナスになるという記載もあるのですが、今回の料金の審議会に至る背景といたしまして、何か松江市が特徴的な状況にあるのか、人口減少ですとか物価高騰の関係というのは、松江市だけではなくて全国的なことだというように認識をしておまして、その辺りの全国的な傾向ですとか、近年における料金改定の中核市の状況ですとか、そういった傾向を少し教えていただけたらなというように思っております。よろしくお願いいたします。

○岩本会長

はい、どうぞ。

○事務局 小塚上下水道局長

局長の小塚でございます。本日は大変ありがとうございます。

全国的な傾向ということでございますが、先ほど中西次長のほうからお話ししましたとおり、人口減少というのは全国的な現象でございます。

それから、水道料金の改定でございますけれども、これは先ほども申し上げましたが、原価計算をきちんと公表しなさいと国が言っておりまして、多くの自治体がそれをやらざるを得ない状況です。

それから、一般会計のほうからの隠れ補助金と言われる、実際に水道料金というのは、水道の使用料をもって、料金をもって賄いなさいというのが大原則でございまして、ただ、多くの中小の自治体については、何とか定住化も進めていくというような観点から、基準外の繰出金をして水道料金を一定程度維持してきたというのが背景でございます。

これは市町村合併をする前の旧簡易水道を抱えておりました八東郡の各町も同じような状況でした。水道料金を統一改定するときに30%以上の値上げというような形になりましたけれども、そういったことで維持をしていたのが、どんどん加速度的に人口減少が進んでいくという中で、基礎自治体そのものの体力も失われてきたということがございまして、多くの自治体が今、水道料金の改定に踏み出しているという状況でございます。

県内で申し上げますと、非常にショッキングな記事が半年くらい前に出たと思うのですが、津和野町さんが約40%以上上げられるというようなお話がありましたし、大田市がまた20%程度上げると。大田市は確か令和2年度、3年度ぐらいで上げていたのですが、また併せて段階的に値上げをしていくという話。

それから、あとは非公式ですが、県内各市が今、非常に原価計算が合わないので、30%ぐらいの値上げをしていかなければいけないのではないかとされているところがございます。

我々としたしましては、先ほどなぜロケーションからご説明したかということ、松江市のインフラ事業というのが、非常に高コストな体質を持っているということをもまずご理解いただいた上で、我々としては、ただ安心安全、それから能登半島と非常にロケーションが似ているこの島根半島、原子力発電所を抱えるようなロケーションの中で、上下水道が止まると、少しでも半島部をどうしていくのかという問題もございますけれども、そういったことをきちんと将来に向かって、今できるうちにやっていきたいと、やらせていただきたいと。建設改良投資については、着実に計画どおりに進めさせていただきたいということを前提として、そのためにはこれぐらいの料金を必要といたしておりますということをすべて詳らかにした上で、大いに議論をしていただいて、最終的に答申をしていただくということでございます。

我々としても、先ほど言った収益的収支がマイナスになるということは資金が毎年減っていくということで、そうすると、やろうと思えば全部借金に回していく。人口が少なくなる中で借金を回していくとなると、自分たちの子どもや孫の代にそのツケを回していくということになりますので、できるだけ世代間負担を公平化するために、定期的に料金を見直し、それから建設改良事業を見直す中で、適切に将来に大きな負債を残さないような、上下水道を、特に水道というのは命の水でございますので止めるわけにはなりませんので、それを将来にわたって適切に管理をしたいということで、今回、諮問という形で出させていただきました。

全国的にいうと、中核市の岡山市が令和6年に値上げしたり、あるいは千葉県の県営水道が20%程度上げることが1ヵ月ぐらい前に出ておりました。ここ数年のところでは水道料金というのは値上げの方向というように考えているところがございます。

また詳しいデータにつきましては、次回のところでもまたお示しできると思いますので、よろしくお願ひ申し上げます。

以上です。

○岩本会長

ありがとうございました。よろしいでしょうか。

○原田委員

ありがとうございました。よく分かりました。

少し数値的なものも確認をさせてもらっても大丈夫でしょうか。資料4の3ページの経営の健全性というところで、真ん中の企業債残高対給水収益比率ということで、5年度の決算値が244.0ということでございます。

こちらの企業債残高に対する比率が、いわゆるなかなか低い値になってくると、恐らく将来世代への負担が高まってくるような数値なのではないかなというように思っておりますけれども、これは近年だんだん下がってきているわけなのではないでしょうか。4年度、5年度の数字は分かるのですけれども、そういった悪化傾向にあるのかどうかということを少し確認させていただけたらと思っております。

以上でございます。

○事務局 中西次長

中西でございます。企業債残高と給水収益の比率というものが、松江市はそれこそ平成の 11 年に第 1 次の経営戦略プランというものをつくって、そういったところからこの指標を見ているのですけれども、当時 3 倍を超えているような借金を抱えておりました。

その 3 倍以内に借金を落とすべきというところで目標を立てて、給水収益に対する借金残高を減らすという努力をしてきておりました、現在 244 という形になっているのですけれども、当時は 300 を超えていたところでございます。

一方で、他都市についてはまだ 300 を超えているというようなところもございますけれども、松江市の経営指標による借金のバランスというものは、現在、この給水収益の比率というところの下にあります市民 1 人当たりの企業債残高というところを比べておりました、松江市でいうと、給水人口 1 人当たりに対して約 5 万 5,000 円の借金をしているという状況でございます。

他都市の令和 4 年度の類似団体 1 のところが 5 万 2,000 円というところになっているのですけれども、これが平成 30 年にこの計画をつくったときに、類似団体の平均が約 4 万 8,000 円から 9,000 円でございます。

ですから、松江市としては、平成 30 年に 1 人当たりの借金というのを 4 万 8,000 円から 9,000 円まで下げたいという目標をもって取り組んできておりました、その段階が今 5 万 5,000 円というところになっております。

今回、諮問させていただいた内容にも、やはり借金残高をできるだけ他都市と比べても遜色のない、将来にわたって負担が残さないようなレベルにしたいというところで取り組んでいるところでございます。

○原田委員

ありがとうございました。

○岩本会長

ありがとうございました。

ほかの委員の皆様、何かございますでしょうか。

福島委員、お願いいたします。

○福島委員

市 P 連の福島です。ご説明ありがとうございました。

私は小学校、中学校の保護者の団体の代表でございます。こういう細かい大きな額のことはよく分かりませんが、感想を述べさせていただきますと、「松江市の水道料金は高いよね」というのは、やはり保護者、親の会話の中で「高いよね」というのはよく出ていたのですけれども、この本日の水道事業の概要の説明を聞きまして、「それで高いのか」ということがすごく分かりましたので、やはりこういう事業の内容の見える化というところにも注力されれば良いかなと思いました。

私どもの団体で、昨年度は学校給食課から色々ご相談いただいて審議をさせていただいた内容で、給食費の値上げということもあったのですけれども、少しそこリンクしながらお話を聞かせてい

ただいていたのですけれども、そこでもやはり、どうしても今まで値上げをしていなかったものを値上げするというので、色々な審議をさせていただいたときに、やはり各市郡の傾向とか値上げの比較資料というのを掲示していただきながら、「松江はこうなのか」というような理解を図っていただいて協力をさせていただいた部分もありましたので、そういうところもお話していただきながら、変わらず組織を挙げて国の補助金も請求していただけたらなと思っております。

感想でした。ありがとうございました。

○岩本会長

何かご回答されますか。

○事務局 小塚上下水道局長

ありがとうございます。一番分かりやすいのが、やはり他都市との比較だと思います。

実際、先ほど言ったように、水のでき方というのが非常に違いまして、例えば近くだと米子市と斐川水道水道企業団というのは図抜けて安いのです。これというのは、それぞれ日野川、斐伊川の伏流水という非常にきれいな水を取って、塩素だけ入れて、それを米子だと山陰道沿いに大きなタンクがあるのが見えますかね。あそこから一気にその高低差だけを利用して隅々まで、境港の先まで届けることができる。斐川も非常に平坦な土地柄でございますので、水管橋とかもありませんし、それからポンプなどもありませんし、そういったことで非常に安くできている。

松江の場合には、山あり谷あり川あり、それから 100km からの送水管がありということで非常に高くできている。まず、そこを理解していただいた上で、全国的に先ほど原田委員からもございましたが、中核市や例えば県庁所在地がどういう料金の推移を示しているのか、そういったことも含めて分かりやすい資料を心がけさせていただいて、比較していただけることができるようなもののご準備を次回以降申し上げたいというように思っていますので、よろしく願いをいたします。

○岩本会長

ありがとうございました。

ほかにございますでしょうか。

はい、金井委員。

○金井副会長

ありがとうございました。これは松江さんと関係がないのかもしれませんが、県から 80%もらっておられますので、同じようなとは言いません。何か手を加えられる必要はないのですが、県からの事業ですよね、給水事業というのですか、その資料。

例えば、県がタダで水をくれたら一市民としては安くなるという、もう全く極端な発想になっているのですけれども、その辺りを教えてもらえる資料があれば、それがこの議題とはまた違うのですけれども、そこが分かるとより良いのかなと思うので、その資料を次回以降で構いませんので、簡便なもので結構ですので、教えていただければと思います。

○事務局

承知しました。

○岩本会長

ありがとうございました。金井委員が今おっしゃったことは多分非常に重要で、県側も何とか、ボランティアとか慈善事業でやっているわけではなくて、それなりに県の政策・施策としてやっておられることだろうと思うので、県の方針みたいなのは確かに知りたいところではありますよねということかなと理解いたしました。ありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。

はい、植田委員。

○植田委員

旅館組合の植田と申します。感想というか、まず、私は何十年も松江に住んでいると、昔はよく夏になると「水がなくなったからどうだ」と、最近ないですよ。こういう努力をしておられる結果だなというのがよく分かっています。

それにはお金もかかることですし、色々な経費がかかる。それはありがたいなと思っていますし、商売をしている上では水がないとできない商売で、旅館・ホテルというのは水がないとできない商売ですから、安定的に安心安全で供給を継続的にしていただくと。インフラとしての使命というのを果たしていただく。そのためにお金がかかるというのは十分理解しております。

その中で、「松江は高い」というように言われるのですけれども、その理由ももちろん理解をしていますし、必要なのは、他と比べることももちろん大事なのですが、自分たちがどうやってここの維持管理ができるかということのほうが大事で、他と比べても財布だとか色々な状況が違うわけですから、比べることは必要ですけれども、一番大事なところは、自分たちが将来に、子どもや孫たちに負の遺産を残さないためにはどうすべきだとか、そういうことがやはり中心で話をすべきではないかなというように思っています。

また、今日、私がこの場に来るとするのは、旅館等の立場として多分大口ということで、普通大体大口でいくと大学か工場か工業水か、それからこういう旅館とか、こういった水を扱うところだと思うので、工場というのはなかなかあれでしょうから、大学といっても大きなプラントが必要なところは近くにあまりないので、多分旅館組合に言われたのかなと思って、覚悟して今話をしないといけないなというように思いました。

もう1つ、旅館組合も大小あって、小規模旅館さんとか旅館組合に加盟していないところというのは、例えば最近流行りの民泊だったりとか、簡易宿泊施設とか、本当に小規模で、家庭の延長上でやっておられるところもありますでしょうし、大規模もあるでしょうし、その辺りのところで組合としてバランス良く発言をしていかないといけないなというところがあって、大規模旅館さんだけの話をするわけにはいかないなということは思っていますので、この辺りも数字的に見ると、やや家庭用とか小規模のところには薄く、大規模のところは厚くという感じの数値感でありましたので、この辺りについても十分理解ができますし、ただ、理解できるからそれをということではないと思います。

それから、もう1つは、やはり色々な権利の主張と義務というのがあると思いますから、やはりそれを安定的になるとこれだけの義務は、私どもはお支払するという義務を果たさないといけな

いと思っています。

水道料金というのは、確かに「高い」「高い」と言われますけれども、1日あたりで生活の中でいくと100円未満とか前後なのです。計算すると、1つの家庭で、大体上下水道で1万5,000円、6,000円前後で、そうすると、平均すると100円ちょっとだと思います。それが今回のもので十数パーセント、ざっくり計算すると20%未満というところというのは、今、物価高もありますし、容認することはできます。

それから、設備というのは今、非常に上がっていますよね。私どもも今、色々な工事に関わっているのですけれども、1年半前と比べると倍なのです。工事費用が。

このようになっていきますので、それが先々になって下がるということはもうないというように判断したほうが良いだろうというように思いますので、まだまだこれから上がっていくだろうというように思いますので、そういったものをある程度見込んであるか分かりませんが、見込んだ数値感というのを出していかないと、また先々で見直しをどんどんしていかないといけないと思いますので、高くなる分をどうするかというのはまた別の議論としてやらないといけないなど、感想ですが思いました。

○岩本会長

次は、先ほど手を挙げられておられました万代委員、お願いいたします。

○万代委員

消費者問題を代表して出させていただきます万代と申します。よろしく申し上げます。

縷々説明していただいて、ものすごく理解を深めてまいりました。管の老朽化というのはすごく私も気になっていた問題だったので、こういうお話をいただいたときに、どのような感じで進んでいくのかなということを考えながら出てまいりました。

私の質問は、3ページの水道事業について、料金回収率というところで、令和5年度が97.1%となっていて、回収率としては良いほうかもしれないのですけれども、残りの2.9%はかなり高額になるのではないかなと思っていて、そういうところの回収というのはどのようになさっているのでしょうか。お聞きしたいと思いました。

○事務局 中西次長

中西でございます。料金回収率が97.1%となっておりますけれども、この下に⑳(106.2)という数字があるかと思うのですけれども、実は平成28年度までは、今でいう旧市内だけの水道事業ということでスタートしておりました。

このときには、水道料金の料金回収率106ということ、水道料金で費用が賄えている状況でした。平成29年から、旧八東郡のたくさんある簡易水道をすべて事業統合した結果、料金収入では費用が賄えないという97.1、そういう状況になったところでございます。

ここについては、国のほうから補助制度がございまして、それを市を通じて繰り入れをしていただいている関係で、トータル的には100を超える費用は賄えているという、その状況になっております。

○事務局 小塚上下水道局長

すいません、万代委員さんが言われるのは、料金回収率というのは未納の方がいらっしゃるかどうかという意味合いでのご質問だと思いますが、これは先ほど、今ここにある料金回収率というのは先ほど中西次長がお答えしたとおりで、いくら料金で賄っているのかという意味でございます。

料金の収納率につきましては、当年度分というのがございますが、これが99.6%になっております。水道を払っていただかないと、大体90日ぐらいで水を止めてしまいますので、大変いつもしかられているのですけれども、水を止めさせていただいて、それでお支払いいただくと。

下水道は公的債権といって差し押さえができる債権なのですが、水道というのは私的債権で、差し押さえというのが強制執行できない債権でございます、その代わり水道法によって水を止めることができるということで何とかお支払いをいただいております、0.4%の未納がございます、それは段階的に回収をさせていただいているという状況でございます。

以上です。

○岩本会長

ありがとうございました。確かに料金回収率という言葉だと、料金の未納のほうにも見えますね。ありがとうございます。そういう言葉の質問とかも遠慮なくしていただければと思います。

それでは、ほか何かございますでしょうか。

宮原委員、お願いいたします。

○宮原委員

ありがとうございます。松江は水の都と言われていて、大変水に親しんで生活させてもらっているのですけれども、蛇口をひねって水が出てくるといふ、その経路というか、いかに頑張って水を松江市に運んでいるかということが、今日の説明を聞かせてもらって初めて知るところでした。

普段は子どもたちや子育て中のお母さんたちとの関わりが多いですので、そういったことも松江市の現状というところを私たち勉強した者が伝えていけると良いかなと思ったところです。

私も本当に初めて知ることばかりでしたので、核心をついた質問はできませんが、少し頭に浮かんだことで、大変細かいかもしれませんが、お聞きしたいのですが、水道管路というか、家が建てばそこに水道を引くので、水道管が引かれていて、そこが空き家になったり使われなくなったりしたものというのは、その水道管というのはそのまま置いていて、それは何もといますか、水道料金というか、何かこの今回のお話に関係があるのかなのか、まずお聞きしてみても良いですか。

○事務局 中西次長

失礼いたします。松江市のこの状況も、非常に今、空き家が増えていく状況でございます、ここでいう給水料金というもの、単価1m³当たりというところが出てくるのですけれども、それが上がること、それから基本料金が上がること、それによって今までは空き家でも一応水の契約は残したままで、お正月、それから月に1回ぐらいはというところで、契約を残されている方も、このことにより一旦契約を解除される、そういったような状況も出てくるのかなと考えております。この諮問の内容の料金改定には直接といったところは含めてはおりませんが、現実には料金ができ上がっ

たときに、そういう状況が起きる可能性はあると考えております。

○宮原委員

パーセンテージが私は分からないのですが、まちを走っていると空き家ですとか、今マンションだったりアパートだったりもどんどん新しいものに変わっていく中で、使われなくなった建物というのが結構あるのかなと思っていて、その改修で、当時その地面の中に水道管を這わせたところが、今度こちらに新しいものを建てようと思ったときに、敷地をまたいで入っていったりとかということがあると思います。そこを誰がとといいますか、水道管をどのように工事するのかみたいなところは、大きな話ではないかもしれないのですが、家電のリサイクル料金みたいな感じで、使われなくなった水道管を、もう本当に住まないよということになったときに、そういった費用でもって何か良い具合にするのか、ただ、今言われたみたいに置いておいたままでも、水道管が今後老朽化して破裂するとかということがなければそのままでも良いのかなとか、そういったことで、微々たるものかもしれませんが、何か松江市の収入の足しにもなることもあるのかな、どうなのだろうという、そのような質問、考えがありましたので発言させていただきました。

○岩本会長

ものすごく分かりやすい、生活者目線のご質問。確かにそうですね。無駄になったものをそのまま維持しておくで維持費もかかるだろうみたいなことですよ。何か。

○事務局 橋本課長

維持管理課長の橋本でございます。使われなくなった水道管なのですけれども、あくまでも個人さんが引かれた管でして、所有はその個人さんの所有物、権利がございます。局のほうを勝手に止めることはできないので、ほとんど放っておくことがあるのですけれども、当然、管が古くなって漏水したりとかという場合は、局のほうで修理とか対応はいたしますけれども、基本的にはそのまま残しているのが現状でございます。

○岩本会長

それは個人の敷地内の水道管の話ですよ。今おっしゃったのは。

○事務局 橋本課長

局所有の公道に入っている水道管から分岐して個人のお宅に入っている管も、これがもう使われないということになっても、それを止めるにはまた公道を掘って元から止める、何十万かかるような費用がかかりますので、そういったことはいたしておりませんで、実際はそのままにして、漏水等があったときは対応するというような、今現状はそうっております。

○岩本会長

そうなのですか。家を建てて、水をもらうときに、家主さんは水道管を設置する料金も実は負担していると。

○事務局 橋本課長

そうですね。

○岩本会長

知らなかったです。私も勉強させていただきました。なるほど。空き家になってしまって、もうその敷地に誰も住まないとなると、しかし、水自体は行くわけですからね。

○事務局 小塚上下水道局長

水道メーターを撤去してしまって、そこで止めてしまう。ですから、水道メーターの立ち上がりまでは管は生きていますけれども、水が出ないようにしてあるということです。ですから、公道からその敷地内で漏れるという場合もありますので、そうすると、全体の水の運用に影響を及ぼす場合もございますので、そのままずっと放置すると、それは仕方がないので、局の費用というか、みなさんからいただいた水道料金でそれは直してしまうということでございます。全国的に大体同様の対応をしているという状況です。

○岩本会長

ありがとうございます。私でも分かるような身近なご質問ありがとうございました。
ほかにございますでしょうか。
川谷委員、お願いします。

○川谷委員

町内会自治会連合会から出ております川谷でございます。今の料金の体系の諸々のご説明は良く理解できました。

ただし、一般市民の方は、なかなか専門的なことは分からないと思います。我々もこれから検討していく上で、やはり分かりやすい資料をどう提出していただくかが1つかかっているかなと思います。

「松江市の水道は高いね。出雲とかと比べると」という声も出ていますけれども、今、説明を聞けば根拠も分かりますので良いのですけれども、一般市民の方はなかなかそこまで理解がいかないと思いますので、極力分かりやすい有効な資料を提供していただければ良いかなと思っていますので、要望でございますので回答はおりません。

○岩本会長

それでは、資料の準備をぜひよろしく申し上げます。
せつかくですので、喜多川委員も何か一言申し上げます。

○喜多川委員

喜多川です。よろしく申し上げます。

今、県外に息子が大学進学で京都に生まれて、「水道をひねったらすごく臭いがして、うがいをするのもつらい」と言われたのです。それを聞いたときに、「松江市は本当に水がおいしいね」という

話になりまして、これは本当に内々の話なのですけれども。

それを結構県外に進学した方に聞くと、「うちの息子もそう言っている」と。本当に臭いと色、あと、滑らかさとか色々なところに、結構学生目線でも敏感になるぐらい、「松江市の水はすごくきれいだ」と県外に行って実感した」とよく話しているのですけれども。

あとは、今、川谷さんがおっしゃったように、みなさんに分かりやすい資料、見ていただける資料はすごく大事だと思っていて、例えばこの水物語、こういったシンプルな感じで作っていただくと、「何かな」と読もうとする、何か読みたくなるような資料をぜひつくっていただきたいと思いました。

やはり水道料金、うちはマンションなので管理費と一緒に引き落とされたりするので、はっきり言って意識をしなかったりする部分でもあって、しかし、それは少し怖いなという気もしていて、値上がっても全然気付かない間に「あっ」と。やはり戸建ての方に比べると少し疎い部分があって、その辺りも見直していかないといけないなと個人では思っています。

少しまとまりがなくて申し訳ないのですけれども、そういったところが気になりました。ありがとうございます。

○岩本会長

ありがとうございました。やはり分かりやすい資料へのリクエストというのが複数の委員から出されておりますし、松江市の水は、すごく全国的に見て水準が高い水である、クオリティの高い水であるということ。お酒とかもおいしいのですか。私は飲めないのですけれども。水がきれいなところは、良いお酒がつかれるらしいです。

ちょうど計ったわけではないのですけれども、全員にご発言いただいたところでちょうど良いお時間になりました。これまでのところで、現状や課題についての共通認識が得られたものと思います。

今回は諮問案について、算定方法など、詳細なご説明を伺い、実質的な議論に入るわけですが、委員の皆様には、次回までに本日の資料を十分にご確認いただき、積極的な発言を期待しております。

なお、後日でも追加質問や追加資料の要望がございましたら、お手元の質問事項・要求事項記入票により事務局まで提出していただき、次回の審議会に事務局から回答をお願いしたいと思います。

私からはこのぐらいなのですけれども、みなさんのほうで何か付け加えたいということがございましたら。よろしいですかね。こういう資料の要求票とかを用意していただいていますので、ぜひご活用ください。

よろしいですかね。特にないようですので、以上をもちまして、第1回松江市公共料金に関する審議会を終了いたします。

それでは、事務局にお返しします。

○事務局 中西次長

ありがとうございました。

それでは、第2回の審議会につきましては、2月ごろの開催を予定しておりますが、日時が決定次第、委員の皆様にご案内したいと思いますので、よろしく願いをいたします。

なお、第2回目以降については、審議の場所は松江市上下水道局を予定しております。松江市の北公園・総合体育館、その横に消防署があるのですけれども、その横にございます上下水道局の庁舎を予定しております。また案内のほうに記載をさせていただき予定でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、ここで上下水道局長の小塚豊よりお礼のご挨拶をいたします。

○事務局 小塚上下水道局長

改めまして、本日は大変お忙しいところ、ありがとうございました。

公共料金を上げる審議ということでございまして、皆様方には様々な大きな責任の中で、責任のあるご発言をいただきまして、重ねて御礼を申し上げます。

私どもといたしましては、先ほども申し上げましたが、将来に対して責任を持った仕事をさせていただきたいと。そのために皆様方にオープンにできるものをすべて100%オープンにして、活発なご意見をいただいた上で、最終的な結論を導いていただきたいというように考えております。

次回以降も、回数の定めを別に持っているわけではございませんので、様々な資料要求にお答えをいたしまして、できるだけご要望をいただきました分かりやすい資料の作成に心がけたいというように思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

○事務局 中西次長

ありがとうございました。

それでは、委員の皆様、お気をつけてお帰りください。どうもありがとうございました。